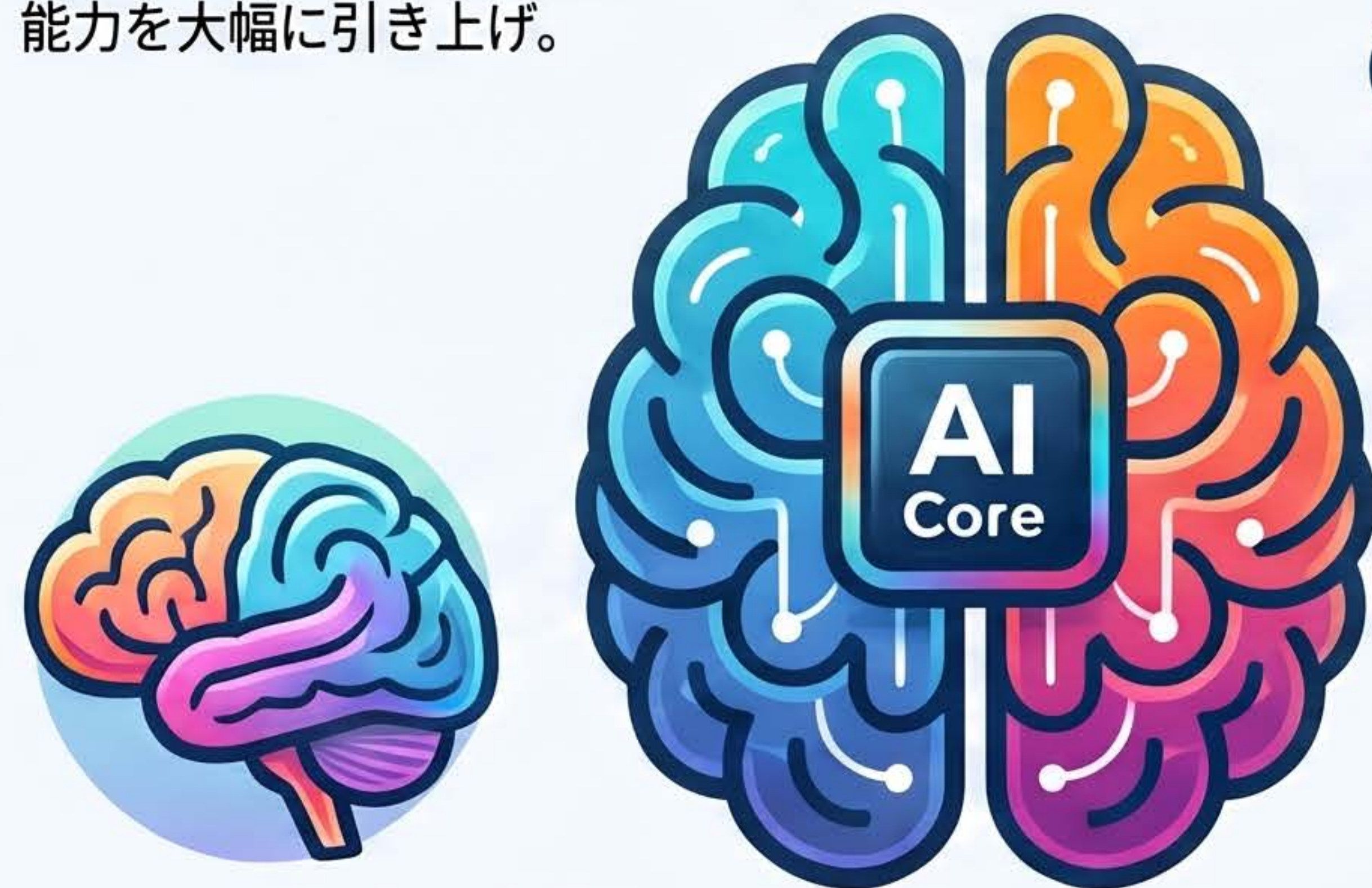


GLM-5.3：ポストトレーニング主導の性能飛躍とその衝撃

Z.ai（智譜AI）のGLM-5.3は、既存のベースモデルを再学習せず、ポストトレーニングの拡張のみで性能を劇的に向上。クローズドモデルのフロンティアに肉薄し、AI開発の競争軸が「事前学習の規模」から「強化学習環境の質」へ移ることを示唆。

技術仕様と開発パラダイムの転換

ポストトレーニングによる性能飛躍：基盤モデルを再学習せず、能力を大幅に引き上げ。



ベースモデル (GLM-5.2)

巨大MoEアーキテクチャの継承
総パラメータ数数約744-753B、
アクティブ40Bの効率的MoE設計
を採用。

1Mトークンの超長文コンテキスト
最大128Kの出力に対応し、巨大な
コードベースや長期タスクの処理
が可能。



実環境型強化学習

性能比較と社会的インパクト



コーディング能力が50%向上
ソフトウェア工学タスクにおいて、前世代から
圧倒的なベンチマーク上昇を記録。

主要モデル性能比較



オープンモデル初の「安全による公開延期」
高いサイバー能力に伴うリスクを考慮し、ウェイト公開
を約2週間遅らせる措置。

サイバー防御テストで84.5%を記録
脆弱性発見においてClaude Mythos 5などの最先端
モデルに匹敵する数値を達成。